



主体：「みんなのしるし」実行委員会 (有)System-Lab & NPO 法人 TreeSeed
協力：独立行政法人 防災科学技術研究所、東京大学、(株)リプロ、(株)ナブラ・ゼロ
陸前高田市立気仙小学校



みんなのしるし

“校庭のすみっこに、子ども達の“夢”をつめこんで”

ご協賛のお願い

東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の復興への動きは、新たなフェイズにはいりました。被災地が求めているのは地域で自立し、地域の力で復興事業を持続できるようになるための援助です。

私たちは、“地域の元気”を軸に現在住民の力で自立した復興を可能とするシステムを構築するため、地域と密に連携したグループを組織して実現に向け動いています。本計画を進行し、実現していくためにはどうしても資金と物品が必要となります。そこで、この度資金・物品提供のご協賛のお願いをさせていただきます。

背景

家を、職を、家族を失った被災地において、地域の未来である子どもたちがもたらす元気は計りしれません。「再起できる年でもない…」とふさぎ込んでしまう方が、子どもたちの遊ぶ声を聞いて元気になると言います。しかし、子どもたちのかつての遊び場であった校庭には仮設住宅が乱立。子どもたちが自由に動き回れる場所も少なくなりました。

“みんなのしるし”では、スマホアプリを利用して学校内に空間上のタイムカプセルを創造することで、地域の未来となる子どもたちの夢に向かって一生懸命に取り組んでいる姿をアーカイブし、地域に保存していこうと試みます。

本プロジェクトのメンバーとなるのは、地域主体の復興に無くてはならない地域の若者たちです。そして、芸能・映像・防災・教育などの業界に長くたずさわる様々な専門家たちが、彼らの活動を支えています。

被災地では地域コミュニティの消失とともに、目には見えないところでも芸能をはじめとする貴重な地域の文化が失われています。地域文化の再生事業に次世代をになう子どもたちと取り組むことで、地域に誇りを取り戻していくことも、私たちの重要な事業の1つです。

私たちは“みんなのしるし”の事業を通して、地域を元気にする支援と、長期的視点で地域の自立した復興事業を可能とする素地作りをおこなっていきます。まずは地域が元気になることが、地域復興のための大前提です。地域の元気が、復興に向けた全てのパワーの源になると確信しています。

目的・方法

地域の未来である子どもたちの活動の記録を、学校内に創造した空間上のタイムカプセルに詰め込んでいきます。写真やムービーなど、何年経っても色あせない記録を残すことで、先生や友だちとの“きずなと夢”を未来につなげます。アーカイブされた子どもたちの地域への想いや誇り、そしてキラキラした夢は、やがて地域復興の糧となることでしょう。

記録していくのは、子どもたちが自ら編んだ感動体験です。さらに『夢授業』と題した、地域の文化的専門家や公演、様々なプロフェッショナルを招いた防災ワークショップを行うことで子どもたちの感性を刺激し、未来の可能性を広げます。

具体的な方法と展開案

・情報杭とスマホアプリの連携

スマートフォンを当てると情報が画面に表示される杭を学内に設置。その杭の位置(空間情報)を元にスマホアプリと連携させることで、様々な情報をアーカイブしていくためのタイムカプセルを創造します。情報の機密性保持のため、アプリの利用は強固なセキュリティによる登録承認制です。杭がある場所までこなければ、見る事の出来ない階層(子供自身が未来や夢を語る部分)を作ります。

・杭のデザインと一貫したデザインの、使いやすいアプリインターフェイス

アプリには、主に地域芸能発掘や地域専門家／全国のボランティア専門家とのワークショップ『夢授業』や、交通安全及び防災教室・運動会・遠足の動画・写真・作文・絵画をアップしていきます。記録された各情報は、アプリ画面にID&パスワード入力することで、該当項目を抽出できる仕組みです。

また防災の予備知識や地域の防災に関わる歴史など、「防災まめ知識」を検索アイコン下部に設けます。「防災まめ知識」を随時更新し、ユニークかつ重要な情報を流していくことで、ユーザーの防災への意識を日常的に高める工夫を加えます。

・SNS (Facebook との連動) の活用

アプリと平行して、卒業生 SNS も活用。たとえ将来地域から離れることになっても容易に連絡を取り合うことができるシステムを構築します。

例えば卒業写真や文集などをアップし、卒業生同士がいつでも交流できるソーシャルネットワークとリンクさせることも可能です。クラスメイト同士の連絡のみならず、災害時における安否の確認など、多岐にわたる様々な利用法が期待できます。

本事業は、地元の NPO や民間企業、そしてボランティアを中心に少なくとも 3 年以上の事業(10~20 年と永続的な活動を目標)とします。また本年度に限り、主に中央からの専門家主体に事業を進めていきますが、来年度以降は地元の法人に手渡していくことで地域の雇用を促進し、地域主体で事業を進めていけるように促します。

組織

- ・ 地域の高校生や若者等を対象にボランティアも募ります。
- ・ NPO 法人 TreeSeed(気仙沼) と 有 SystemLab(大船渡)と連携し実行委員会を作ります。

将来の展望

“みんなのしるし”が陸前高田に生まれてから、3年。市内の小学校に広まった“みんなのしるし”は、地域に新たなコミュニケーションを生むことに成功しました。地域の行事の度に、老若問わずスマートホンのスクリーンをのぞきこむ地域のひとびとの姿。映し出される子どもたちの一生懸命な姿をみて、1つ1つの思い出が浮かび上がり、思わず笑みがこぼれます。スマートホンに記録された子どもたちの元気は、地域の元気。ポジティブな気持ちが、復興を前へと進める原動力になっています。

そして10年が経ち、第1期でプログラムに取り組んでいた子どもたちは、大学に進学したり就職したりする者から、地域の復興事業に中心になって取り組む者まで、それぞれの道を進みはじめています。青年となった彼らが、久しぶりに皆で地元で集まり同窓会の席でのぞきこむのは、やはりスマートホン。かつて小学生だった自分たちの姿を見ながら、思い出ばなしに花を咲かせます。するすると思いだされる昔の記憶。中には当時の『夢授業』がきっかけで、進路を決めた者もいるとか。

そしてこの事業はその地域の若者に引き継がれています。

さらに時が経ちました。スマートホンの形は変わってしまいましたが、アーカイブされていた当時の子どもたちの元気は、街の大切な資料として残されています。地域の復興事業に取り組んでいた若者も、親となりました。彼らは子どもたちに昔の写真を見せながら、震災のこと、被災地となった地元で取り組んだこと、そして故郷への思いを未来の世代に引き継いでいきます。

“みんなのしるし”は被災地からの復興に向け皆で生きた証を世代を越えて心に伝えます。

もう地域には、かつて被災地であった陰りは見えません。地域のいたるところで、子どもたちの元気な笑い声があふれています。

対象学校 (陸前高田の小学校全校)

短期スケジュール

- ・ 地元の民謡や祭・太鼓をヒントに新しい文化コンテンツ「身体・声」を開発する。
(民謡「ご祝い」、祭「けんか太鼓」「七夕祭」等から抽出し使用予定)
- ・ 音楽界／舞台会の著名人やプロフェッショナルと教育文化プロジェクトを立ち上げ、東京のメディアに訴えかけることで、寄付を募り、持続できる活動を実現させる。
- ・ 気仙小学校(本年度で閉校)6年1組のけんか太鼓発表会(仮)を文化祭に開催。
- ・ 夏休み以降に文化授業を開始。陸前高田の文化を子供達と再構築(アレンジ)する。

- ・ 映像作家、音楽家、振付師など専門家を招き、「ほんもの文化体験授業」を行う。
- ・ ほんもの文化体験授業や子どもたちの輝く姿をアーカイブする。

現在、この企画のプレスリリースのためユーザーインターフェイス及び、杭のデザイン制作を行っています。今後、子どもたちや教員の意見を最重要視して取り入れ、アプリの内容や表現手法を模索。今年度(2013年3月)の卒業時の完成を目指し開発します。

本年(平成24年度)は、気仙小学校6年生(12名)の卒業までの1年間を記録して、アーカイブ例とします。また1クラスに主眼を置いて事業を進めることで、丁寧でゆきとどいた結果を提示できるようにします。

予算表 別紙で制作中

機材表 別紙で制作中

実行委員会所在地

〒022-0002

岩手県大船渡市大船渡町茶屋前 57-6 E-3

おおふなと夢商店街 復興地図センター内

“みんなのしるし” 実行委員会 (有 SystemLab/NPO 法人 TreeSeed)

Tel:070-6611-8479 Fax:0192-47-3428